

1. 学園法の目的

○沖縄を拠点とする国際的に卓越した科学技術に関する教育研究の推進を図り、もって沖縄の振興及び自立的発展並びに世界の科学技術の発展に寄与する。(沖縄科学技術大学院大学学園法(平成21年法律第76号))

2. 学園・大学の特色

○学園は、OISTを設置し、当該大学において国際的に卓越した科学技術に関する教育研究を行うことを目的とする学校法人。平成23年11月設立
5年一貫制の博士課程のみからなる大学院大学を運営。平成24年9月開学

- ・基礎科学※を基盤とした、学際的・統合的研究を推進 ※物理、化学、数学、計算科学、神経科学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、環境科学、海洋科学、生態学、工学・応用科学の8分野。
- ・学部の壁がない組織体制(単一の研究科、研究ユニット制等)
- ・英語が公用語の国際的環境であり、教授陣や博士課程学生などの半数以上が外国人
- ・ハイトラストファンディング制度によって研究の時間と予算を確保し、挑戦的研究を可能に
- ・最先端の研究施設及び機器、コアファシリティを利用可能

(期待される沖縄の振興への効果)

- ・科学技術の国際的な研究拠点の形成
- ・科学技術に関する高度人材の育成
- ・イノベーション・エコシステムの形成 等

3. 大学の運営状況

○臨時理事長兼学長は、**ダニエル・ザイフマン博士**(元ワイツマン科学研究所長)。
・理事(常勤4名、非常勤12名)は、ノーベル賞受賞者等の科学者、沖縄振興や大学経営に係る有識者等。

○世界中からトップクラスの頭脳を沖縄に惹きつけ、計676名が研究に従事。(データ:R8.1時点)

- ・教授陣(PI) 96名(外国人64%、24の国・地域)
- ・博士研究員等 333名(外国人82%)
- ・博士課程学生 298名(外国人77%、52の国・地域)。これまで221名の博士がOISTから誕生。
- ・技術者等 152名(外国人58%)

○研究ユニットは、採用時及び原則5年ごとに、外部評価委員会が世界的に高いレベルの基準で評価。

○平成22年3月に第1研究棟、平成24年6月に第2研究棟、平成27年6月に第3研究棟、令和2年4月に第4研究棟、令和5年4月に第5研究棟を供用開始。



ダニエル・ザイフマン
臨時理事長
兼学長

キャンパス外観



令和8年度OIST関係予算

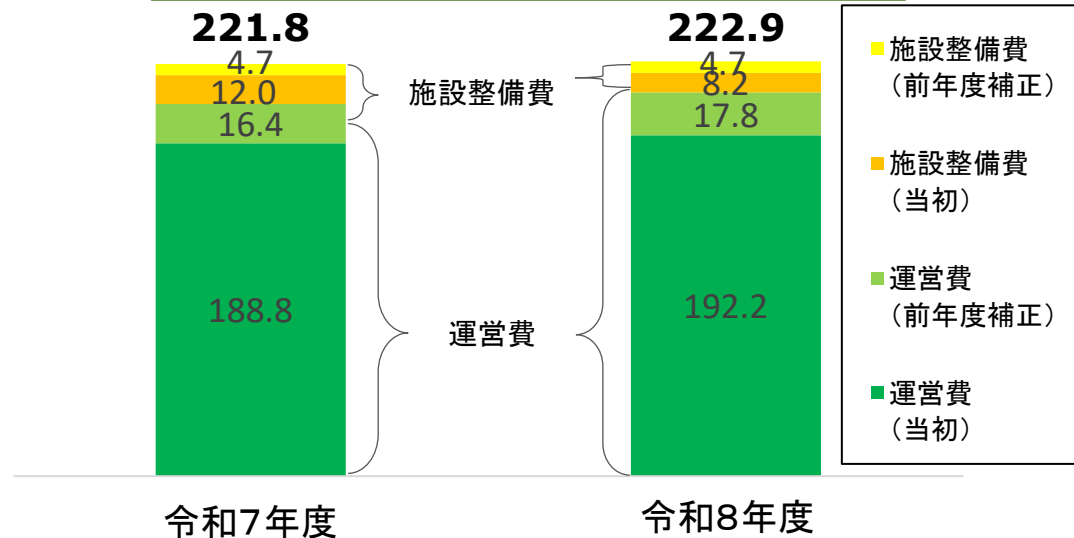
- ・令和8年度予算額は200.3億円(対前年度0.5億円減)
- ・令和7年度補正予算を含めた総額は222.9億円(対前年度1.0億円増、0.5%増)
- ・研究の基盤となるHPCやシーサイドハウスの機能強化改修等の整備に要する経費を計上

令和8年度予算額

令和7年度 予算	令和8年度 予算
200.8億円	200.3億円
(施設整備費 12.0億円 運営費 188.8億円)	(施設整備費 8.2億円 運営費 192.2億円)

(参考: R7補正 22.5億円)

(参考)当初予算+前年度補正予算



主な内容

- HPC(ハイパフォーマンスコンピューティングシステム)の導入 4.0億円
- オープンセンター自走化・拡充に向けた支援 1.0億円
- 教員(PI)増員(97名→98名)関連費用 1.3億円
- シーサイドハウスの機能強化に向けた改修 6.2億円 等



(シーサイドハウス)